

「東京都教育ビジョン（第5次）」に位置付けられた教育施策の実施に当たって、都内公立学校の子供たちや教員たちから、様々な声を聴き取りました。これらの意見等を参考にして、それぞれの施策・取組を展開していきます。

聴き取りの概要

質問紙法によるアンケート調査【子供・教員】

実施期間 令和6年10月11日～令和7年1月20日

実施方法 子供及び教員が、端末等を活用し、Web上の質問に回答する

質問内容 「学校生活を通じて身に付けたい（身に付けておくべき）力は」など各11問

回答者数

	小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
子供	746人	669人	1,669人	263人	3,347人
教員	142人	82人	78人	171人	473人

対話による聴き取り【子供・若手教員】

実施期間 令和6年11月14日～令和6年12月6日

実施方法 都職員が対象校を訪問し、子供、若手教員と対話を行い、意見を聴き取る

対話の内容 「誰もがそれぞれ満足する学校にするにはどうしたらよいか」など、子供3項目、若手教員4項目

対象校数

小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
3校	4校	3校	6校（14学部）	16校

※聴き取り対象は各校、子供は3人程度、若手教員は2～3人程度

「東京都教育ビジョン（第5次）」子供版を用いたアンケート【子供】

実施期間 令和6年9月1日～令和6年12月25日

実施方法 「東京都教育ビジョン（第5次）」子供版の巻末「あなたの声を聞かせてください！」から、子供が一人1台端末等を活用し、各基本的な方針についての意見を有志で回答する。

回答数 12,391件

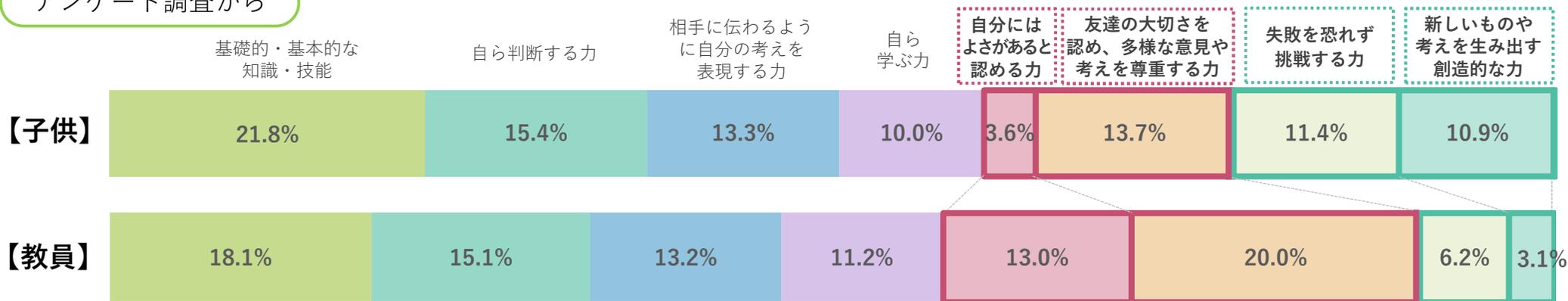
方針1	3,609件	方針7	587件
方針2	1,056件	方針8	710件
方針3	1,001件	方針9	586件
方針4	738件	方針10	616件
方針5	893件	方針11	595件
方針6	1,086件	方針12	914件

（ビジョン子供版）



聴き取りの結果①「学校生活を通じて、身に付けたい（身に付けておくべき）力は」

アンケート調査から



- 「失敗を恐れず挑戦する力」「新しいものや考えを生み出す創造的な力」の割合は、教員より子供の方が高い
- 「自分にはよさがあると認める力」「友達の大切さを認め、多様な意見や考えを尊重する力」の割合は、教員より子供の方が低い

児童・生徒との対話から

学校は社会に出るための入口として必要。社会に出た後に協働できるように学校があると思う

自分のよさに気付くことができたなら、もっと積極的にチャレンジできそう

失敗を恐れて挑戦しないと成長できない。若いときこそ挑戦し続けて未来につなげた方が自分のためになる

今後使われていくAIは、新しいことを生み出すのは苦手だと思う。その部分を人間がしっかりやっていけばいい

生きていく上では柔軟な発想が必要。難しい問題に対し、すぐあきらめるのではなく、いろいろ考えながらやるのが大切だと思う



➤ 変化に対応できる柔軟な創造性、チャレンジ精神、主体性を育成することが必要

聴き取りの結果②「誰もがそれぞれ満足する学校にするには」

アンケート調査から

【子供】授業で学ぶ内容はおもしろいと思うか



【教員】日頃行っている授業を、全ての子供がワクワクする学びにするために必要なものとして、今、特に重要だと思うもの



- 「授業準備や教材研究を十分に
する時間」の割合が高い（3割弱）。「実践事例集」「先進的な授業を見る機会」等も1割超を占めている。
- 「授業で学ぶ内容はおもしろくない」と
思う子供も、7.8%存在している。

児童・生徒との対話から

一人一人の個性や得意な
ところを生かして、力を
伸ばしていけるといいな

実践的な授業を増やしたら
いいと思う。いろいろな体験を
すると、自分が何が好きな
のか気付くことができる。

先生ともっとコミュニケー
ションをとって、信頼関係
を築いていきたい

授業中にサポートしてく
れる先生が増えたら、勉
強がしやすくなると思う。
相談もしやすい

自分と合わない人は必ずいる。
自分たちが成長して、人と関わ
ることができるようにしたい



➤ これまでの学びのあり方を見直し、一人一人に最適な学びを実現することが重要

未来の東京を担う子供たちの声、教員たちの今（令和6年度）

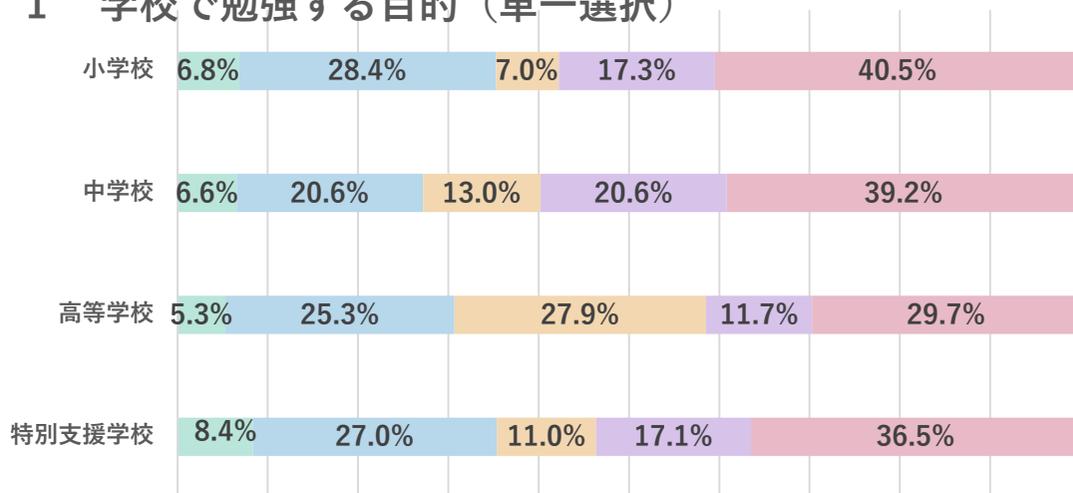
質問用紙法によるアンケート調査【子供】

- (1) 実施期間 令和6年10月11日～令和7年1月20日
- (2) 実施方法 児童・生徒が、一人1台端末等を活用し、Web上の質問に回答する
- (3) 回答者数

小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
746人	669人	1,669人	263人	3,347人

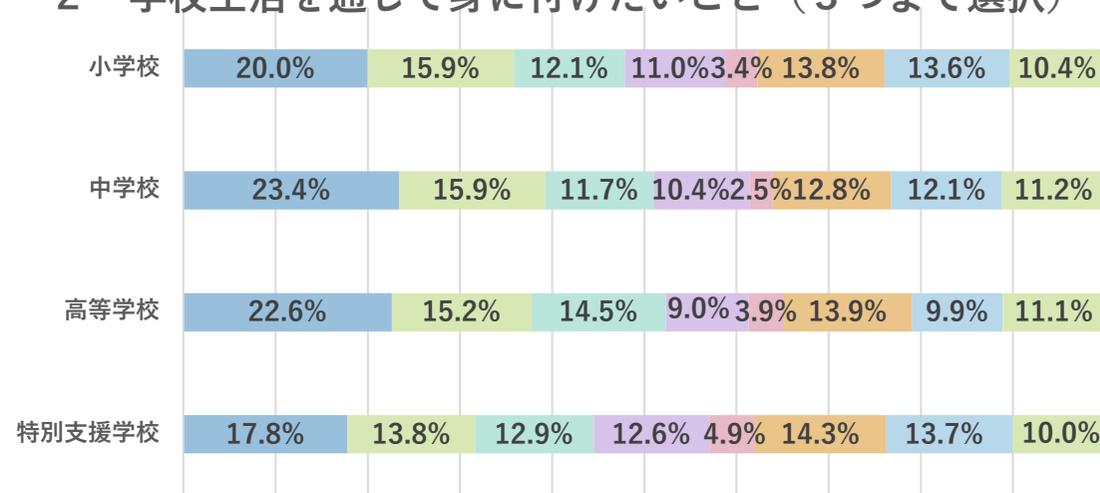
※ 各設問の数字は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示しているため、合計しても100にならないものがある。

1 学校で勉強する目的（単一選択）



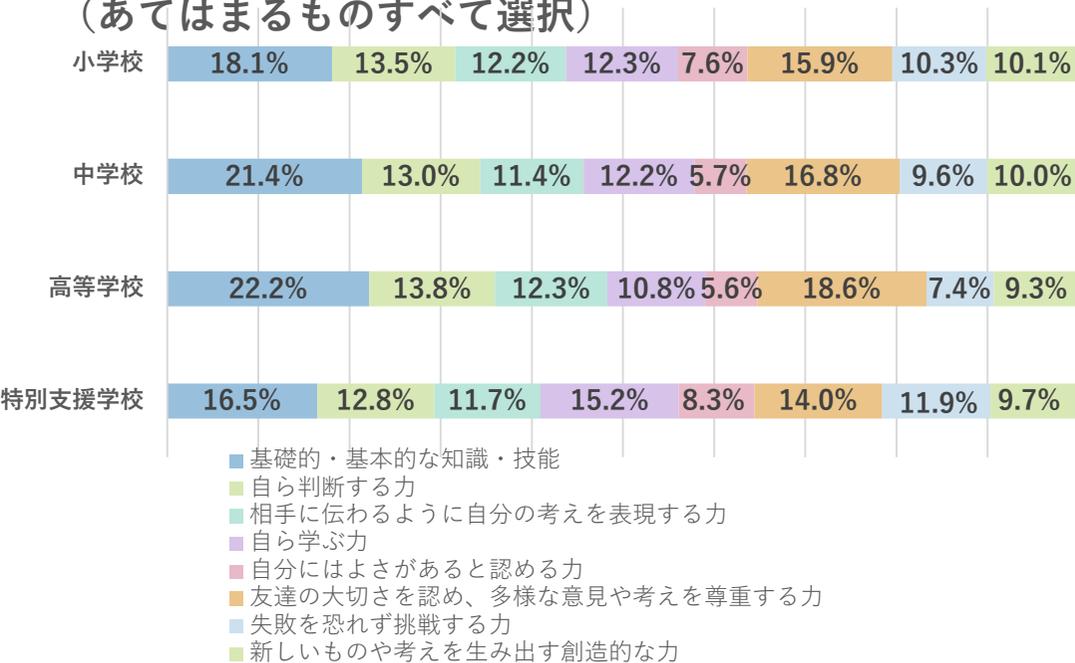
- 勉強することは面白いと思うから
- 友達と話し合うことで、いろいろな考え方に気付いたり、自分の考えを見直したりしたいから
- 自分の興味や関心があることを深めたいから
- これまでできなかった（分からなかった）ことをできる（分かる）ようになりたいから
- 勉強したことが、ふだんの生活や社会に出て役立つから

2 学校生活を通じて身に付けたいこと（3つまで選択）

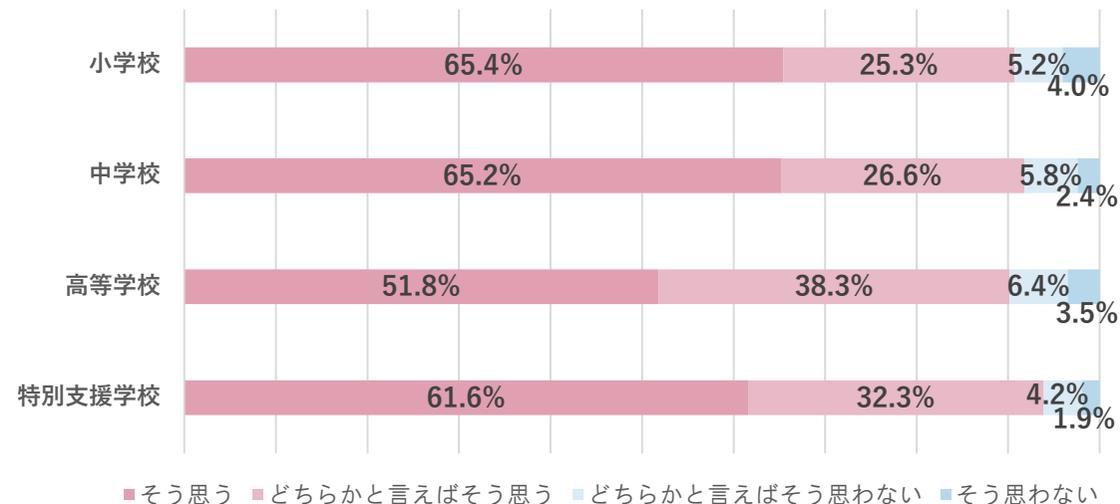


- 基礎的・基本的な知識・技能
- 自ら判断する力
- 相手に伝わるように自分の考えを表現する力
- 自ら学ぶ力
- 自分にはよさがあると認める力
- 友達の大切さを認め、多様な意見や考えを尊重する力
- 失敗を恐れず挑戦する力
- 新しいものや考えを生み出す創造的な力

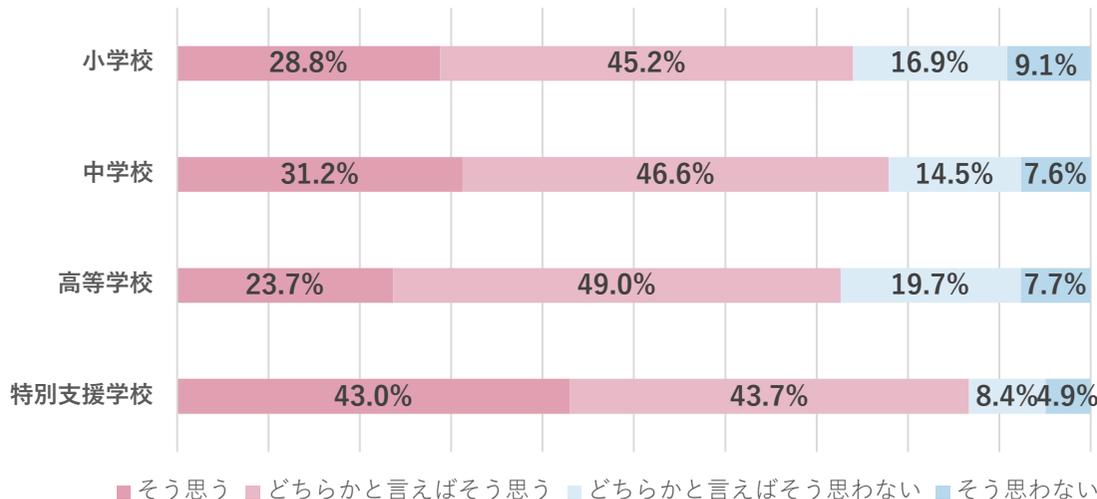
3 学校生活を通じて身に付いていると思うこと (あてはまるものすべて選択)



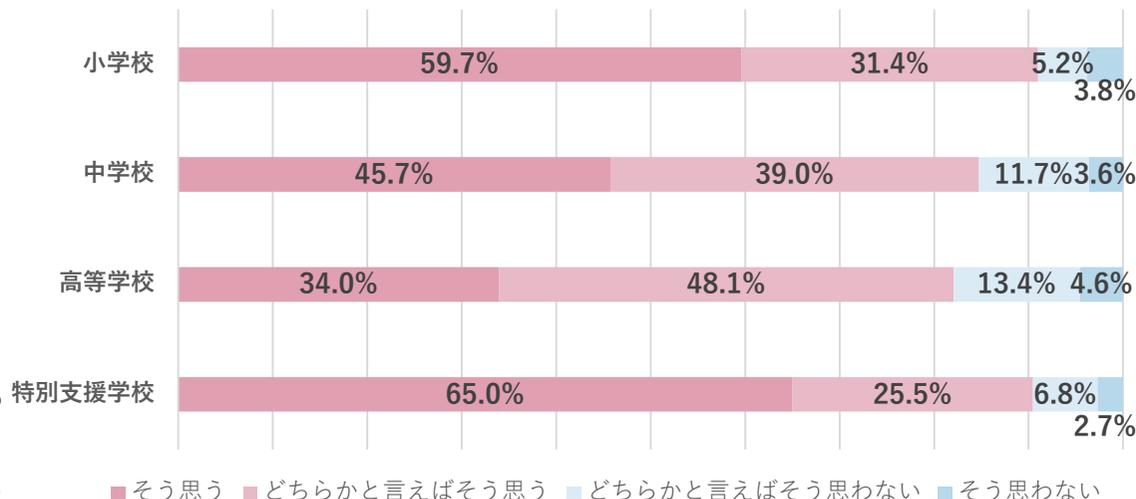
4-1 ふだん学校で受けている授業に関して思うこと (授業は、友達と一緒に学ぶことができると楽しいと思う)



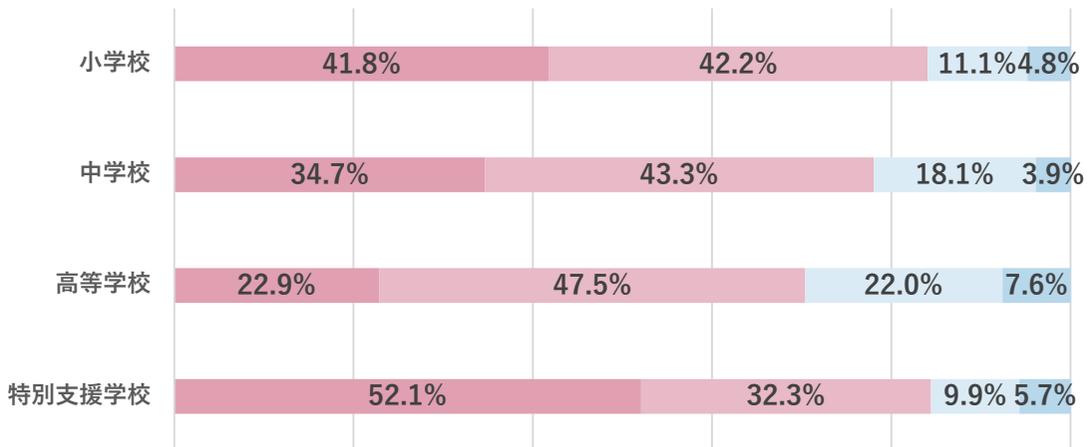
4-2 ふだん学校で受けている授業に関して思うこと (授業で学ぶ内容は面白いと思う)



4-3 ふだん学校で受けている授業に関して思うこと (授業で学ぶことが将来役に立つと思う)

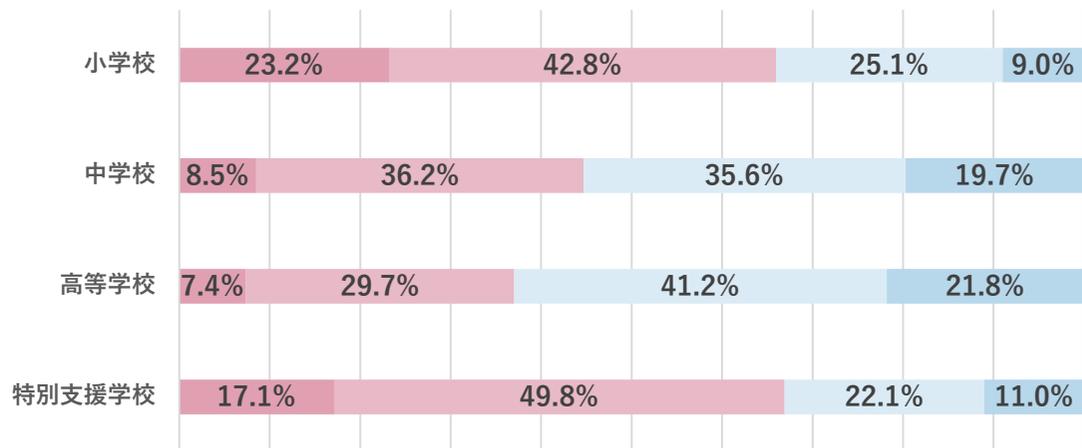


4-4 ふだん学校で受けている授業に関して思うこと (授業で学ぶことが、自分の毎日の生活と結びついていると思う)



■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない

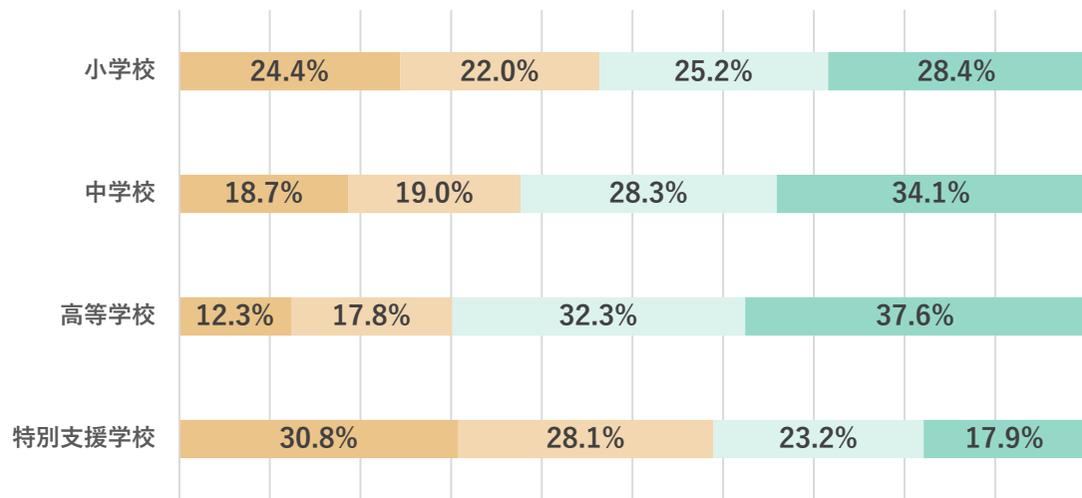
5 学校での勉強がどのくらい得意か



■ 得意である ■ どちらかと言えば、得意である ■ どちらかと言えば、得意ではない ■ 得意ではない

6-1 学習スタイルについて、どちらの考え方に近いか

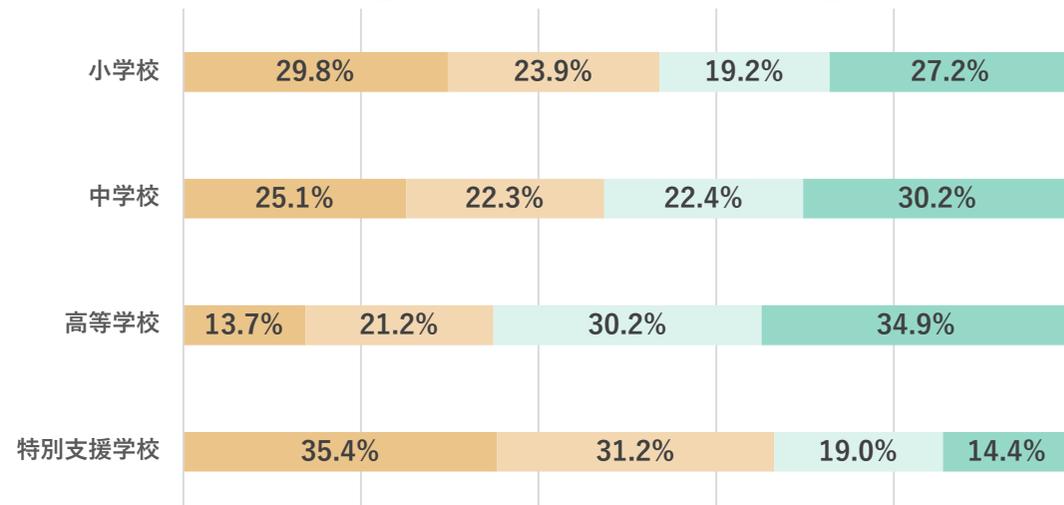
(A：周りと同じペースで学びたい／B：自分のペースで学びたい)



■ Aに近い ■ どちらかと言えばAに近い ■ どちらかと言えばBに近い ■ Bに近い

6-2 学習スタイルについて、どちらの考え方に近いか

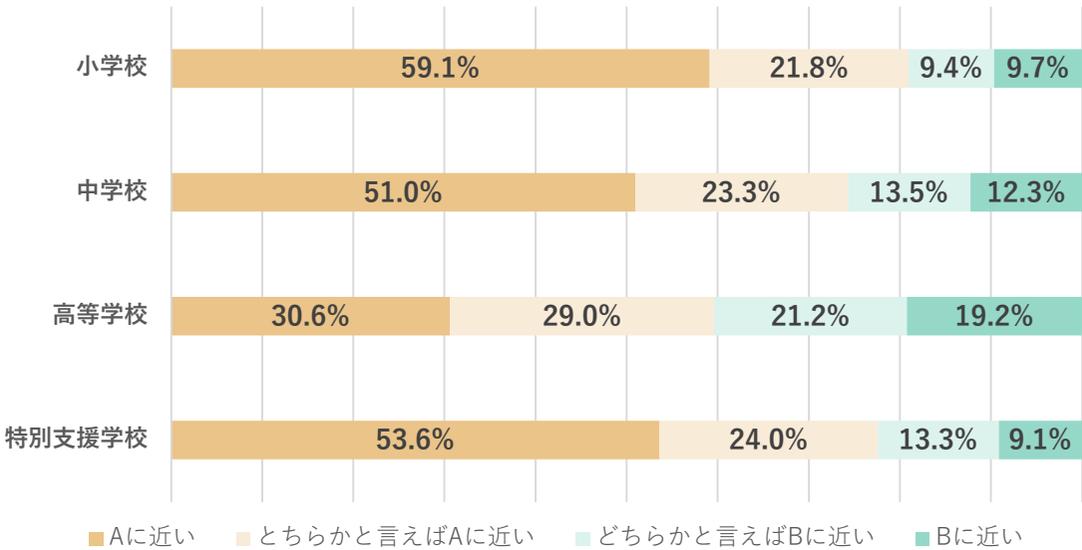
(A：周りと同じ課題を学びたい／B：自分の好きな課題で学びたい)



■ Aに近い ■ どちらかと言えばAに近い ■ どちらかと言えばBに近い ■ Bに近い

6-3 学習スタイルについて、どちらの考え方に近いか

(A：友達と一緒に勉強したい／B：一人で勉強したい)



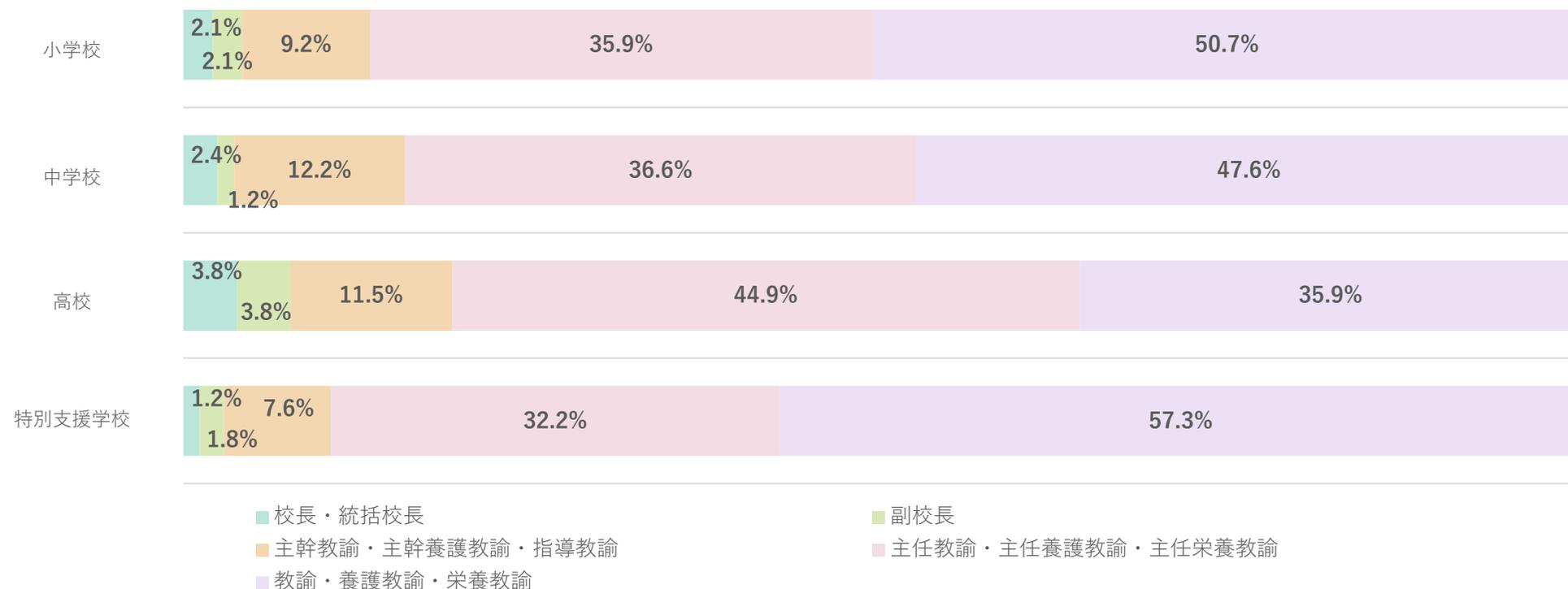
質問紙法によるアンケート調査【教員】

- (1) 実施期間 令和6年10月11日～令和7年1月20日
 (2) 実施方法 職員端末等を活用し、Web上の質問に回答する
 (3) 回答者数

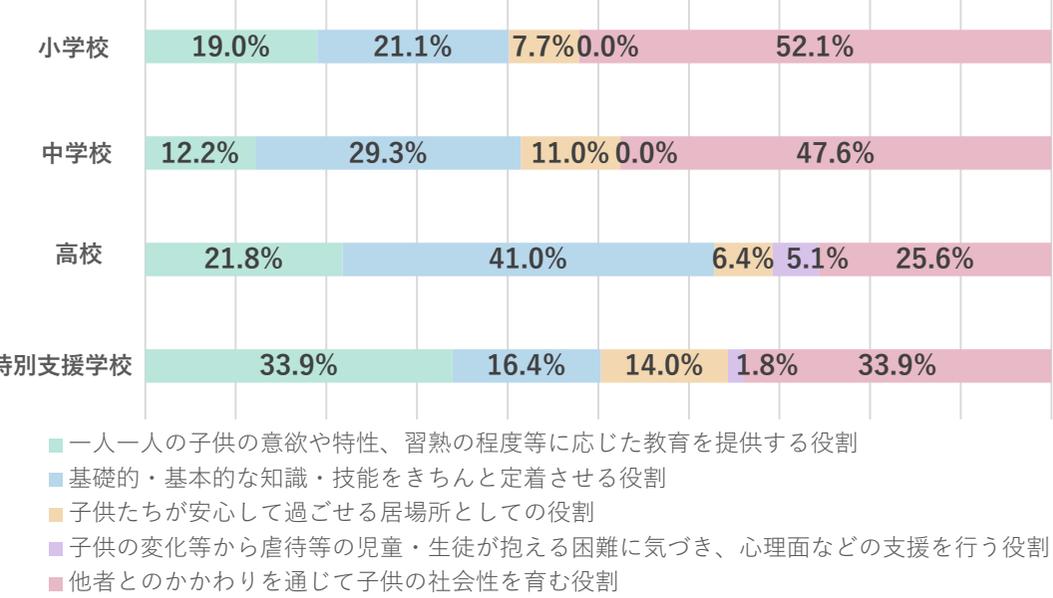
小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
142人	82人	78人	171人	473人

※ 各設問の数字は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示しているため、合計しても100にならないものがある。

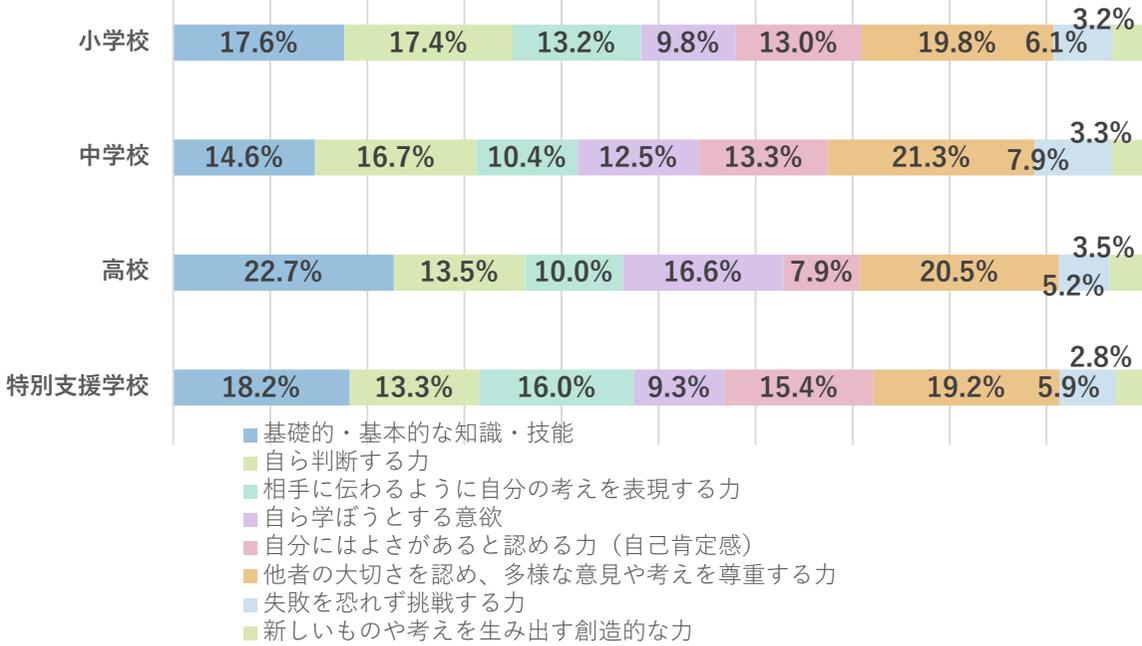
(4) 回答者属性



1 社会の中で公立学校が果たすべき役割について、今、特に必要だと思うもの（単一選択）

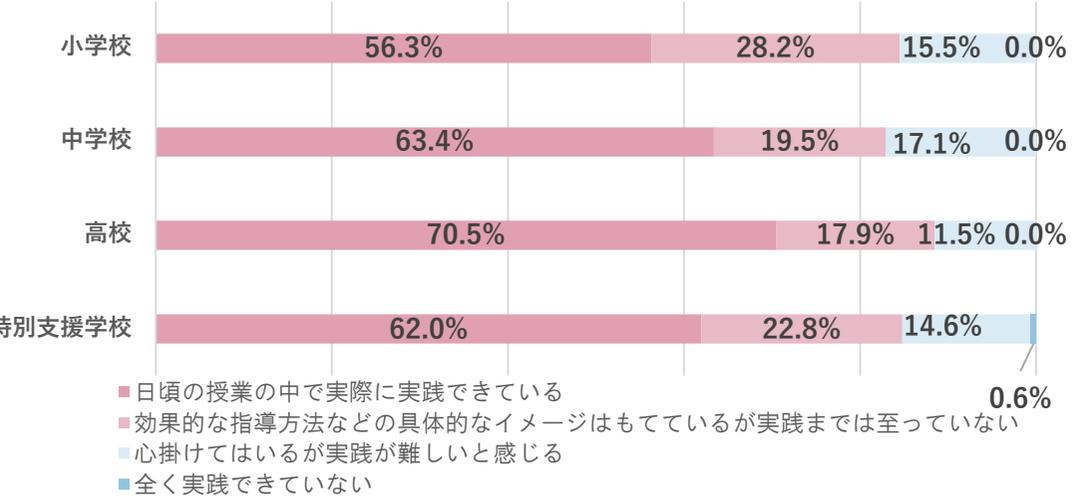


2 子供たちが身に付けておくべき能力・態度として、特に重要だと思うもの（3つまで選択）



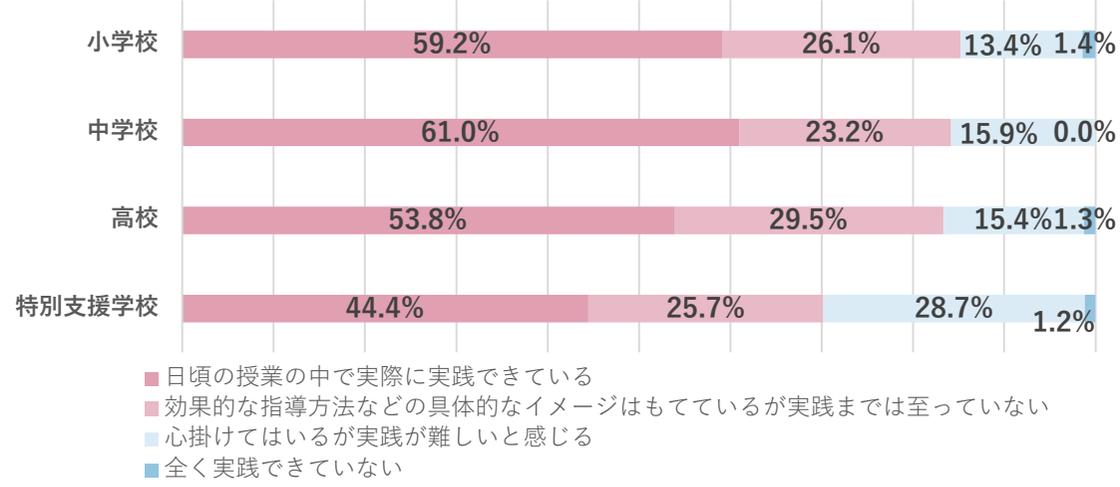
3-1 学習指導に関する実践状況について

（基礎的・基本的な知識・技能をきちんと定着させる）



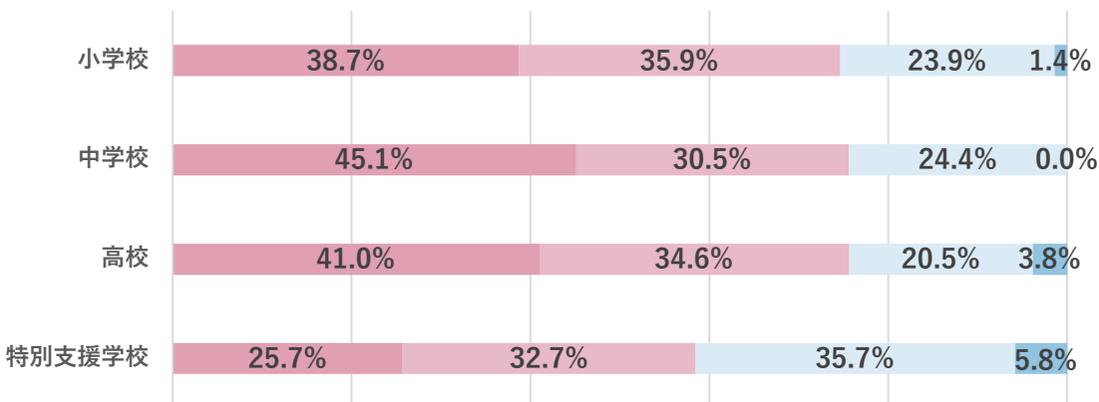
3-2 学習指導に関する実践状況について

（子供たちが自ら思考・判断・表現する活動（子供たち同士の議論や発表の機会を設けるなど）を取り入れる）



3-3 学習指導に関する実践状況について

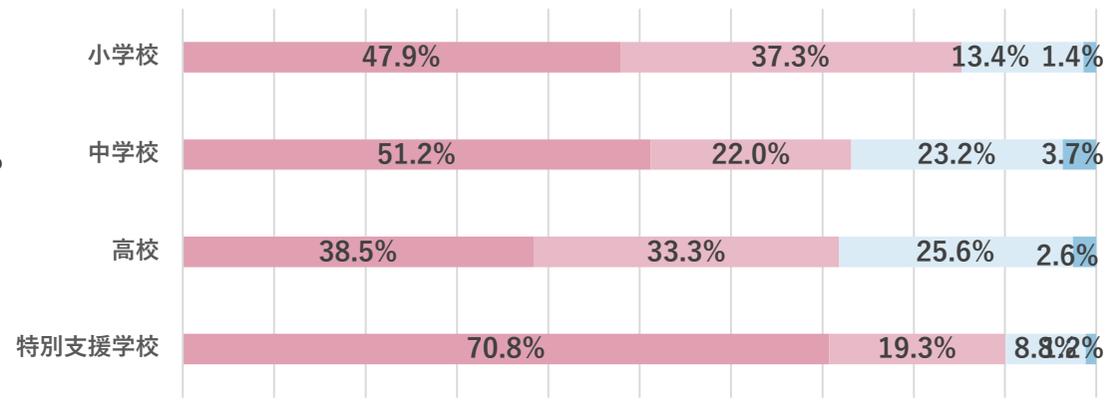
(疑問や課題をもたせて追究させる学習を取り入れる)



- 日頃の授業の中で実際に実践できている
- 効果的な指導方法などの具体的なイメージはもっているが実践までは至っていない
- 心掛けてはいるが実践が難しいと感じる
- 全く実践できていない

3-4 学習指導に関する実践状況について

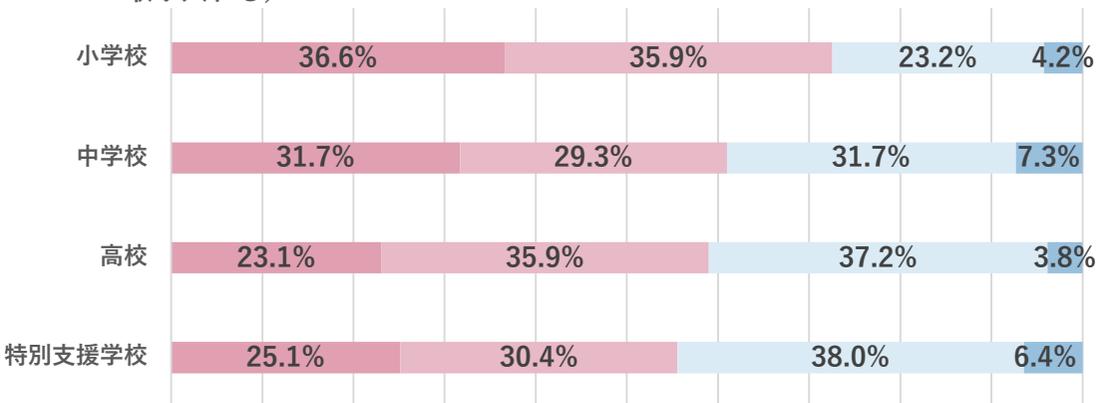
(子供の興味や関心に応じ、それにあった学習活動を取り入れる)



- 日頃の授業の中で実際に実践できている
- 効果的な指導方法などの具体的なイメージはもっているが実践までは至っていない
- 心掛けてはいるが実践が難しいと感じる
- 全く実践できていない

3-5 学習指導に関する実践状況について

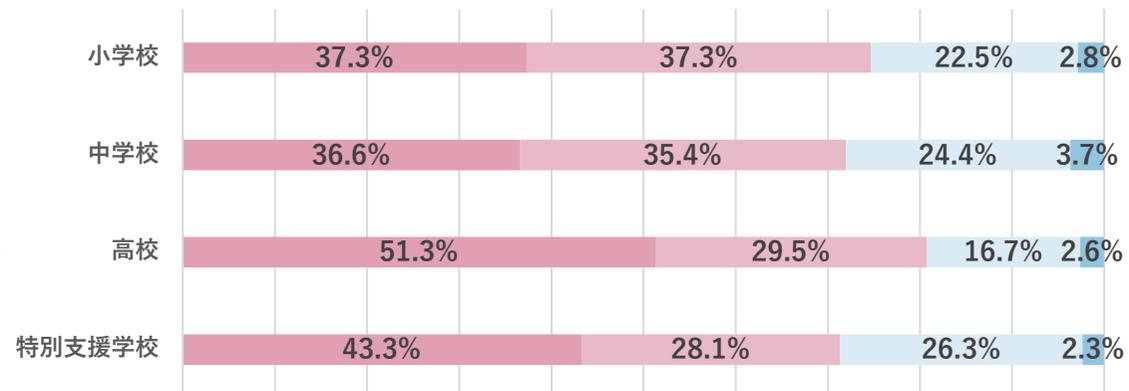
(子供たちが自分で学び方を工夫したり、学習進度を調整したりする活動を取り入れる)



- 日頃の授業の中で実際に実践できている
- 効果的な指導方法などの具体的なイメージはもっているが実践までは至っていない
- 心掛けてはいるが実践が難しいと感じる
- 全く実践できていない

3-6 学習指導に関する実践状況について

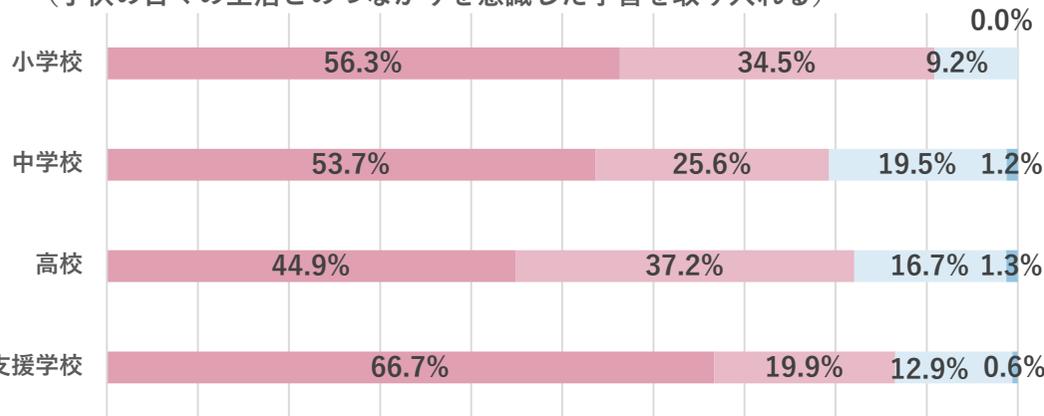
(子供自身の将来とのつながりを意識させる学習を取り入れる)



- 日頃の授業の中で実際に実践できている
- 効果的な指導方法などの具体的なイメージはもっているが実践までは至っていない
- 心掛けてはいるが実践が難しいと感じる
- 全く実践できていない

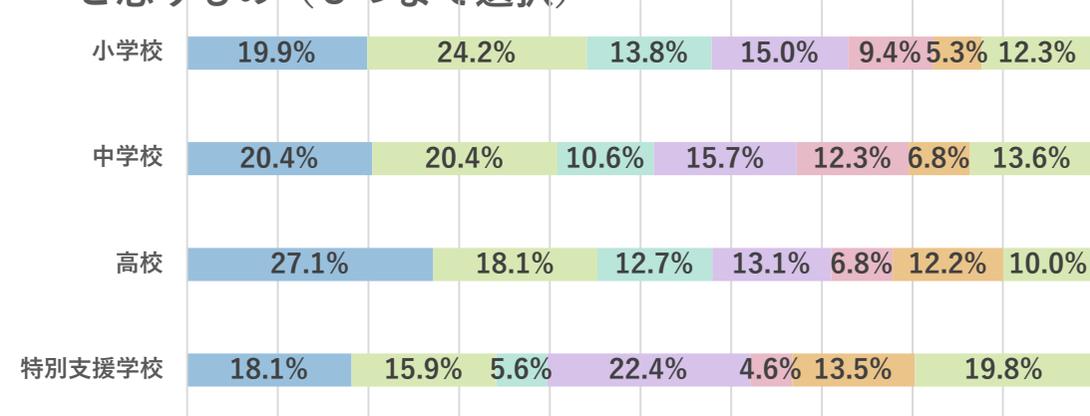
3-7 学習指導に関する実践状況について

(子供の日々の生活とのつながりを意識した学習を取り入れる)



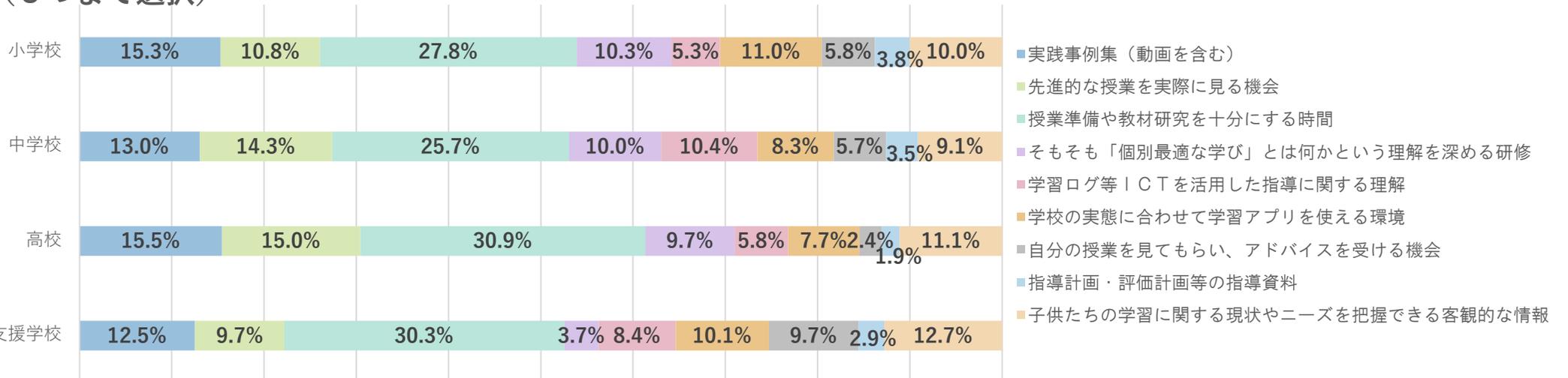
- 日頃の授業の中で実際に実践できている
- 効果的な指導方法などの具体的なイメージはもっているが実践までは至っていない
- 心掛けてはいるが実践が難しいと感じる
- 全く実践できていない

4 日頃、授業をする中で、学習指導として、特に有効だと思うもの（3つまで選択）



- 基礎的・基本的な知識・技能をきちんと定着させる
- 子供たちが自ら思考・判断・表現する活動（子供たち同士の議論や発表の機会を設けるなど）を取り入れる
- 疑問や課題をもたせて追究させる学習を取り入れる
- 子供の興味や関心に応じ、それにあった学習活動を取り入れる
- 子供たちが自分で学び方を工夫したり、学習進度を調整したりする活動を取り入れる
- 子供自身の将来とのつながりを意識させる学習を取り入れる
- 子供の日々の生活とのつながりを意識した学習を取り入れる

5 日頃行っている授業を、全ての子供がワクワクする学びにするために必要なものとして、今、特に重要だと思うもの（3つまで選択）



- 実践事例集（動画を含む）
- 先進的な授業を実際に見る機会
- 授業準備や教材研究を十分に時間
- そもそも「個別最適な学び」とは何かという理解を深める研修
- 学習ログ等ICTを活用した指導に関する理解
- 学校の実態に合わせて学習アプリを使える環境
- 自分の授業を見てもらい、アドバイスを受ける機会
- 指導計画・評価計画等の指導資料
- 子供たちの学習に関する現状やニーズを把握できる客観的な情報

対話による意見の聴き取り【子供、若手教員】

- (1) 実施期間 令和6年11月14日～令和6年12月6日
(2) 実施方法 都職員が対象校を訪問し、児童・生徒、若手教員と対話を行い、意見を聴き取る。
(3) 対象校数

小学校	中学校	高校	特別支援学校	計
3校	4校	3校	6校(14学部)	16校

※聴き取り対象は各校、児童・生徒は3人程度、若手教員は教職経験1～3年を目安として2～3人程度

※特別支援学校の児童・生徒の声については、「東京都特別支援教育推進計画(第二期)第三次実施計画」の策定に向けた聞き取りと併せて実施

児童・生徒

◆ 教育ビジョンの話を聞いて、どんなことを感じたか。

- ・ 教育ビジョンにあるような活動をもっと増やしてほしい。
- ・ 子供たちのことを考えていることは分かっていたが、学校の先生のことでも考えた施策を行っていることに驚いた。
- ・ T G G等の国際教育やI C T環境については、自分たちにも実感があったが、ほかにもインクルーシブな教育など、まだ自分たちが知らないこともあるのだと思った。
- ・ ビジョンを作っていることはすばらしいが、これまでビジョンがあることを知らなかった。全員の目に触れられるようにもっと発信した方がいい。
- ・ 東京都の子供は何十万人もいるのに、一人一人に合った学びなんてどう実現するのかと思った。「良い教育」というものは考えれば考えるほど難しい課題であると感じる。
- ・ 先生方の授業の進め方が変わってきている。コミュニケーションも増えてきている。



◆ **学校でどんなことを身に付けたいか。** ※右下の8点を児童・生徒に例示。特に身に付けたいものを1項目選択の上、その理由を回答してもらった。
※ここでは、対話において、選択した児童・生徒が特に多かった項目とその理由について、主なものを記載

③ **相手に伝わるように自分の考えを表現する力**

- 相手がどう感じるかを考えて話すことは難しい。身に付けることによって、社会に出てから誤解がなくなったり、課題解決に役立つと思う。
- 最近は、自分で選び行動することが多く、他者にちゃんと伝えるという機会が減っているように感じる。もっと相手に伝わるように考える必要がある。

⑥ **友達の大切さを認め、多様な意見や考えを尊重する力**

- 社会に出たらいろんな人がいると思う。自分と合わない人ともうまくやらないといけないが、合う人がなかなか少ない。みんなをもっと知っていききたい。
- 学校は社会に出るための入口として必要。社会に出た後に協働できるために学校があると思う。

⑦ **失敗を恐れず、挑戦する力**

- 成功体験ばかり積んでしまうと、いざ失敗したときにメンタルの面で立ち直るのが難しいと思うので、失敗を恐れずにチャレンジしていきたい。
- 失敗を恐れて挑戦しないと成長できない。若いときこそ挑戦し続けて未来につなげた方が自分のためになる。
- 自分は考えすぎてしまい、結局やらずに、あとでやっておけばよかったなと思うことが多い。失敗してもいいから挑戦することが大切だと思う。

⑧ **新しいものや考えを生み出す創造的な力**

- 今後はAIがどんどん使われていくと思うが、新しいことを生み出すのは苦手だと思う。その部分を人間がしっかりやっていけばいい。
- 生きていく上では柔軟な発想が必要。難しい問題が出てきたとき、すぐあきらめるのではなく、いろいろ考えながらやるのが大切だと思う。
- 友達との会話で、「なんでそんなこと思いつくの」と思う人がたくさんいる。発想力みたいな力が欲しい。

① **基礎的・基本的な知識・技能**

② **自ら判断する力**

③ **相手に伝わるように
自分の考えを表現する力**

④ **自ら学ぶ力**

⑤ **自分にはよさがあると認める力**

⑥ **友達の大切さを認め、
多様な意見や考えを尊重する力**

⑦ **失敗を恐れず挑戦する力**

⑧ **新しいものや考えを生み出す
創造的な力**

◆ 誰もがそれぞれ満足する学校にするには、どうしたらよいか。

- 一人一人の個性や得意なところを生かして、力を伸ばしていけるといい。
- 自分のよさに気付くことができたなら、もっと積極的にチャレンジできそう。
- 実践的な授業を増やしたらいいと思う。
- 先生ともっとコミュニケーションをとって、信頼関係を築いていきたい。
- 自分と合わない人は必ずいる。自分たちが成長して、人と関わることができるようにしたい。
- 学年が上がるにつれて、人間関係が複雑になる。一方で、成長すると人間関係がどうなるかといった授業はあまりされていないので、授業で取り上げてほしい。
- 生徒の考えを一番に尊重してほしい。進路についても、生徒の考えを尊重してほしい。
- 授業中にサポートしてくれる先生が増えたら、勉強がしやすくなると思う。相談もしやすい。
- 地域の人と直接触れ合えると楽しいので、そういった機会を増やしてほしい。
- 不登校の子供なども含め参加できる、誰もが楽しめるような行事をしたらどうか。
- 様々な学校と交流することで、新たな発見があり、ちょっとした偏見を払しょくできる。いろいろな価値観やそれぞれの個性を認め合うことができると思う。
- 進路に関する情報が国内の職業に集中している。留学して海外にも活躍の場があることが分かったので、将来、海外で働きたい人等に向けた情報をもっと得られたら、挑戦し活躍する子供が出てくると思う。



若手教員

◆ 教育ビジョンを読んで、どんなことを思ったか。

- 様々な人に向けた充実した施策をやっていることが分かった。
- 難しい内容だと思っていたが、こうやってやさしく書いてもらえると難しいことではないのだと思う。
- 一人一人の子供を大切に、学校教育が終わった後も、自分で未来を切り拓くことができるように、強化のポイントが設定されていると思った。
- こうしないと子供が伸びないのだな、自分にできているのかな、と思いながら読んだ。
- 教員になってみて、仕事の楽しさを感じる。ブラックというイメージが先行しているので、もっと魅力を発信できたらと思う。



◆ 日頃の業務で難しいと感じること（大学等で学んだこととのギャップなど）はどんなことか。

- 授業づくり。子供が食らいつくような授業をしてみたいが、習熟の個人差が大きくて、生徒のどの段階に合わせて授業を作ってよいか分からない。今はノウハウがないので、教材準備に時間がかかる。
- 学習の評価。子供たちの能力を伸ばすことにつながっているのか、評価が目的になっていないか、考えてしまう。
- 生活指導。子供への接し方やどこまで指導してよいかなど見極めが難しい。家庭への支援が必要なケースも多くある。
- 特別な支援が必要な子供への対応。クラス全体と個別の対応をちょうどいい塩梅で行うことが難しい。
- 教員間の情報共有。話す時間を取ること、様々な考えの先生方がいる中で方向性をすり合わせる事が難しい。
- 保護者対応。学校の考えを理解していただくことが難しい。
- 時間をやりくりすること。授業、校務分掌、明日の準備をすると夜になってしまい、教材研究までたどり着かない。
- 教員は総合職で、何でも求められる。人間の幅を広げることが大切。

◆ 教員の仕事の中で、やってみたいけれど、できていないことは

- 個別最適な学びを実現したい。一人1点研究に取り組む学習などやってみたい。
- 深い教材研究。その子供に対してどういった教材が効果的かを様々試したい。
- 外部の専門家を活用して授業をしてみたい。
- もっと他の地区の先生の授業を見てみたい。
- 生徒の望むことが明確になるタイミングを逃さず、サポートしたい。



◆ 誰もがそれぞれ満足する学校にするには、どうしたらよいか。

- 子供が楽しめることが一番重要。学校だからこそできることを充実させる。
- 一人一人のニーズに応え、それぞれの可能性が一番広がる選択肢を見つけられるようにする。
- 学校の外に出て、学んだことを実際に使うなど、校外での学習活動を増やす。
- 子供や保護者と十分コミュニケーションをとり、円満な関係を築けるようにする。
- 人間関係が大事。教職員同士の関係性がその学校の魅力につながると思う。
- 子供が自分の気持ちに気付き、言葉にできることが大切。子供の声をしっかり聞く。
- 様々な専門機関と連携して、その子供に合ったサポートをする。
- 支援が必要な子供の情報共有の仕方を、もっとやりやすくする。
- 1学級当たりの人数を減らした方がよいのではないか。
- クラスという枠組みにとらわれない単位制等あれば、子供が自分の進度に合わせて学ぶことができるのではないか。



「東京都教育ビジョン（第5次）」子供版を用いたアンケート【子供】

(1) 実施期間 令和6年9月1日～令和6年12月25日

(2) 実施方法 東京都教育ビジョン（第5次）子供版の巻末「あなたの声をきかせてください！」より、児童・生徒が、一人1台端末等を活用し、各方針についての意見を有志で回答する。

(3) 回答者数

方針	回答者数	方針	回答者数
1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育	3,609	7 教育のインクルージョンの推進	587
2 Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材を育成する教育	1,056	8 子供たちの心身の健やかな成長に向けたきめ細かいサポートの充実	710
3 グローバルに活躍する人材を育成する教育	1,001	9 家庭、地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動の推進	586
4 主体的に社会の形成に参画する態度を育む教育	738	10 これからの教育を担う優れた教員の確保・育成	616
5 豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育	893	11 学校における働き方改革等の推進	595
6 健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育	1,086	12 質の高い教育を支える環境の整備	914
総回答数			12,391

柱 1

◆ 自ら未来を切り拓く力の育成（基本的な方針 1～6）

- ・ 学校で、時代を先取りした技術や考え方を学べる時間を増やしてほしい。将来につながる勉強をしたい
- ・ 一人一人が自分に合った教科を選択できるような制度がほしい。自分で選べたら、やる気が出る
- ・ みんなで考えて、タブレットでまとめて発表するのが楽しい。こういう授業が増えるといい
- ・ デジタルを使った方が、効率よく学べる。もっと深い学びができる学校になってほしい
- ・ 一人一人に合った勉強をできるようにするため、いろいろな種類の教材を用意してほしい
- ・ 外国の方たちと関わる機会がもっとほしい。リモートも活用したら、たくさん交流できそう
- ・ いろんな国の言葉や文化を知りたい。将来、外国で仕事をする可能性もあるから、役に立つと思う
- ・ 外国語の勉強で、日常で使えるスピーキングやライティングの練習を増やしてほしい。留学してみたい
- ・ 社会に出て活躍するために、企業等の様々な人たちと交流したい。起業家体験もしてみたい
- ・ もっと自分がやりたいことを見つけるイベントや交流を増やしてほしい
- ・ 学校全体で、もっといじめなどについて相談できる場所があったらいいと思う
- ・ もっといろいろなスポーツができるようにしてほしい。テレビなどで見てやってみたいと思ってもなかなかできないから



柱 2

◆ 誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実（基本的な方針 7～9）

- ・ 支援を必要としている人も、していない人も関係なく、みんな一緒に遊んだり、学んだりする学校にしたい
- ・ インターネットで友達と交流し、学校に来ていない人も勉強できるようにしてほしい
- ・ 安心して、楽しく過ごせて、相談できる人がいる学校にしたい
- ・ もっと気軽に、スクールカウンセラーに相談できる場所を増やしてほしい
- ・ 学校にいけない子供を少なくしてほしい。みんなの学校だから
- ・ 地域の人との交流を増やして、みんなが安心して暮らせるあたたかい街にしたい



柱 3

◆ 子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化（基本的な方針10～12）

- ・ 先生と話す時間が少ないから、少しでも多く話せるようにしてほしい
- ・ 先生だけではなく、アシスタントや補助の先生を採用して、気軽に質問できるようにしてほしい
- ・ 先生のサポートのためのアプリを導入したり、AIで採点を楽にするのはどうか
- ・ もっとサポートする先生を増やしたり、先生専用のカウンセラーをつけたりしてあげてほしい
- ・ 授業や部活動で、専門の知識を持った人に直接教えてもらう機会を増やしてほしい
- ・ 学校のネット環境をよくしてほしい。一度にたくさんの人が使おうとすると、動かなくなってしまうことがあるから



子供、教員の声の聴き取りにご協力いただいた学校

港区立赤羽小学校

府中市立府中第四中学校

都立八王子桑志高等学校

江東区立東陽小学校

小中一貫校檜原学園檜原村立檜原中学校

都立第五商業高等学校

足立区立綾瀬小学校

八丈町立大賀郷中学校

都立久我山青光学園

武蔵野市立第二小学校

都立浅草高等学校

都立葛飾ろう学校

小平市立小平第六小学校

都立大江戸高等学校

都立多摩桜の丘学園

福生市立福生第一小学校

都立八丈高等学校

都立石神井特別支援学校

瑞穂町立瑞穂第一小学校

都立王子総合高等学校

都立永福学園

八丈町立三原小学校

都立大泉高等学校・附属中学校

都立港特別支援学校

練馬区立貫井中学校

都立南平高等学校